

平成 26 年度 宝木小学校 学校評価書

1 教育目標（目指す児童像含む）

(1) 基本目標

心身ともに健康で、自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる判断力、新しい時代を拓く^{フロンティアスピリット}開拓者精神に基づく実践力をもち、夢に向かって心豊かにたくましく生きる児童を育成する。

(2) 具体目標（具体的な児童生徒像など）

- たくましい子（心身共に健康で、強い意志をもって粘り強く行動する）
- よく学ぶ子（基礎学力を確実に身に付け、自ら考え主体的に学習する）
- やさしい子（互いを尊重し、思いやる心を大切にしてお互いにかかわり、ルールやマナーを守り、適切に判断・行動する）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

やさしさ 勇気 喜び そして 夢

学校のシンボルとなっているメタセコイアの木がある。絶滅したと考えられていたこの木は、中国で発見され現在に至ることから、「生きている化石」とも言われる。メタセコイアには壮大な過去があり、そして今がある。そして、未来へと、その生命を繋いでいく。力強い生命力（生きる力）に宝木小の子どもたちの成長を重ね合わせたい。

夏には木陰をつくりやさしくそっと子どもたちを包むメタセコイア。その姿のように、子どもたちの心に「やさしさ」を育てたい。前に進もうと努力するときは、高く伸びるメタセコイアに「勇気」をもらいたい。メタセコイアの前で共に遊ぶときに広がる笑顔と喜び。日々の学習や活動では、できた「喜び」、分かった「喜び」、伸びた「喜び」を大切にしたい。そして、メタセコイアが感じさせてくれる未来へ伸びる姿に、「夢」をえがける子どもたちになることを願いたい。

メタセコイアがくれる「やさしさ 勇気 喜び そして 夢」。それは、メタセコイアと共に成長してほしい宝木小の子どもたちの姿であり、本校教育活動の理念である。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 児童にとって、わくわくしながら登校し、満足して下校できる学校
 - ・アプローチⅠ：基礎学力を高める授業づくり
 - “授業で勝負！” — どの子も取組の成果が実感できる毎時間の授業の充実 —
 - ・アプローチⅡ：規律と活気のある学級づくり
 - “認め励まし、教え導く！” — 心の通い合う人間関係と、やる気の育成 —
- (2) 教職員にとって、自分の力を十分に発揮できる、やりがいのある学校
 - ・アプローチⅢ：教職員一人一人が活躍する学校づくり
 - “同僚性を生かし、教育目標実現に向けた不断の追求！” — 報・連・相を通して —
- (3) 保護者にとって、安心して子どもを通わせられる学校
 - ・アプローチⅣ：保護者の皆さんと力強いスクラムづくり
 - “相互理解と相互連携の構築！” — 子どものよりよい成長を軸に —
- (4) 地域にとって、信頼できる開かれた学校
 - ・アプローチⅤ：地域の皆さんとの強い絆づくり
 - “地域と学校の相互交流による信頼関係の構築！” — 地域の宝としての子どもを軸に —

[陽西地域学校園教育ビジョン]

共に学びあい、互いのよさを認め合う人づくり

—社会的自立を目指すキャリア教育を通して— （自分のよさを活かして、粘り強く頑張る子どもに）

4 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- (1) 特色ある学校づくりの展開
 - ・「やさしさ 勇気 喜び そして 夢」を軸とした特色ある教育活動の推進
- (2) 学習指導の充実
 - 基礎的な学習態度・学習習慣の形成と基礎的基本的な学習内容の定着
 - ・児童のやる気を高める学習指導の展開と読書意欲の向上
 - ・学びに向かう集団づくり
- (3) 心を育む教育活動の推進
 - 命を大切に、思いやりの心を育む心の教育の推進
 - ・校内推進委員会の一層の充実（配慮を必要とする児童の早期発見と組織的対応）

(4) 児童指導の充実 ○基本的生活主観の形成（「児童のやくそく」の徹底） ・生命と人権の尊重を軸とした、いじめを許さない態度や実践力の育成 ・「宝木の子ファイル」の活用による、児童の記録累積と活用 (5) 地域の学校づくりの推進 ・学校の取組の積極的な情報発信と家庭教育に役立つ情報の提供 ・地域協議会を軸とした、各種ボランティア等、地域の教育力の活用 (6) 教職員の資質の向上 ・専門性を高めるための自己研鑽と同僚性の構築 ・自己の向上を目指した目標管理とゆとりを生み出す校務の整理・効率化の推進 (7) 地域学校園を活かした活動の充実 ○地域学校園のビジョンである「キャリア教育」の推進 ○情報の共有、協働活動を通した小中連携の充実
平成 26 年度スローガン “自分に自信を 学校に誇りを 地域に愛着を”

5 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
学校運営の状況	A 1 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 <児童アンケート>自分は、学校が好きである→80%以上 <保護者/地域住民アンケート>学校全体に活気があり、明るくいいきとした雰囲気である→80%以上	あいさつ運動など子ども同士の関係づくりを推進し、係活動、共遊、クラブ・委員会活動等の時間と場を保障して、児童の楽しく主体的な活動を推進する。	B	【達成状況】 A1 児童の肯定的回答 90.5% (88.8%) 保護者の肯定的回答 92.8% (92.0%) 地域住民の肯定的回答 100.0% (90.9%) 【次年度の方針】 日課の見直しや行事内容等の精選を進め、児童の主体的な活動の時間や教師が共に過ごす時間を効果的に確保するように努めていく。 清掃後のゆとりの時間は、児童の生活にめりはりがつき有意義であるので継続していきたい。
	A 2 教職員は、組織の一員として熱心に教育に当たっている。 【数値指標】 <児童アンケート>先生方は、大切なことをしっかり教え、熱心に指導してくれる→80%以上 <保護者/地域住民アンケート>教職員は、協力し、教えるべきことを熱心に指導している→80%以上	学校経営への参画意識を高め、主体的な職務遂行に努める。 全員参加の授業研究を一層推進するとともに、家庭・地域等に積極的に情報を発信したり、交流の機会を設けたりするよう努める。	B	【達成状況】 A2 児童の肯定的回答 97.7% (96.8%) 保護者の肯定的回答 91.0% (91.6%) 地域住民の肯定的回答 87.5% (100.0%) 【次年度の方針】 教職員の教科指導における指導力を高めるため、一人一授業の実践を継続していく。 また、保護者・地域住民にたいして、学校だより等により本校の取組状況を知らせ、積極的に情報を発信していく。

A3 児童は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。 【数値指標】 ＜児童アンケート＞児童は、授業と生活のきまりやマナーを守って生活している →80%以上 ＜保護者/地域住民アンケート＞児童は、授業と生活のきまりやマナーを守って生活している →80%以上	宝木小児童の約束のもとに、生活目標を設定し、同一步調で指導に当たるなど指導体制の充実を図り、目標達成に努める。また、家庭と連携し、指導の徹底に努める。 校内の指導方針の明確化と家庭や地域社会との連携強化に努め、児童の規範意識の向上を図る。	【達成状況】 A3 児童の肯定的回答 79.2% (74.2%) 保護者の肯定的回答 87.3% (87.8%) 地域住民の肯定的回答 87.5% (100.0%) 【次年度の方針】 A 教職員の共通理解のもと、同一步調で指導に当たるなど校内体制の充実を図りながら児童指導に努めるとともに、指導方針を明確にした資料等を配付し、家庭教育との連携を図る。
A4 教職員は、分かる授業や児童にきめ細やかな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 ＜児童アンケート＞先生方の授業は、分かりやすく、丁寧に教えてくれる →80%以上 ＜保護者アンケート＞教職員は、児童一人一人が理解できるように教材を工夫するなど、きめ細かな指導をしている→80%以上	学習の基礎・基本を身に付け、児童が主体的に学び合う授業の実現を目指して、日常の授業改善に努める。 少人数学習や TT などの授業形態の工夫に努める。 授業参観やオープンスクール等を利用して、学校としての取組を積極的に紹介する	【達成状況】 A4 児童の肯定的回答 95.9% (93.9%) 保護者の肯定的回答 80.8% (83.3%) 【次年度の方針】 A 校内研修や「一人一授業」を通して、教員の一層の指導力向上に努めるとともに、「褒めること」により児童の学習意欲を高め良い循環を作り出すなど、発達段階に即した系統的な指導ができるよう一層努力する。 また、授業参観やオープンスクール等で積極的に授業中の取組を公開し、保護者の理解・協力を得られるようにする。
A5 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 ＜児童アンケート＞先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる→80% ＜保護者/地域住民アンケート＞学校は、いじめ対策を積極的に公表し、熱心に取り組んでいる。→80%以上	教育活動全体を通して、児童に「いじめは決して許されない」ことを理解させるとともに、思いやりや助け合い、規範意識等の心を育て望ましい人間関係の構築に努める。 学校での取組をホームページや各種便り等で紹介し、地域・家庭と連携して児童を見守る。	【達成状況】 A5 児童の肯定的回答 96.5% 保護者の肯定的回答 64.7% 地域住民の肯定的回答 50.0% 【次年度の方針】 A 本校のいじめ対策や取組状況についての情報を提供できるよう努める。 また、保護者・地域住民と連携して、共に児童を見守る。
A6 日課、授業、学校行事などの教育課程は、適切に実施されている 【数値指標】 ＜児童アンケート＞自分は、学校での生活や様々な活動が充実している→80%以上 ＜保護者アンケート＞学校の日課、授業、行事などは、適切に実施されている。→80%以上	学校目標達成のために教育活動の目的やねらいを明確にし、保護者や地域住民の理解も得ながら、効果的な教育課程の実施に一層努める。	【達成状況】 A6 児童の肯定的回答 90.9% (88.1%) 保護者の肯定的回答 95.5% (94.0%) 【次年度の方針】 B 児童が主体的に活動できるよう、日課や行事の工夫・改善が進められているのが、さらに点検しながら実施していく。また、教育活動の目標の明確化に努め、保護者や地域住民にも理解を得ていく。

A 7 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われ、開かれた学校づくりが進められている。 【数値指標】 <保護者/地域住民アンケート> 学校は、学校だよりや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している →80%以上	地域協議会との連携を深め、引き続き地域に根ざした学校づくりに努める。 積極的に保護者・地域への情報発信を行うため、学校・学年だより、保健・給食だより等の工夫改善を行う。	【達成状況】 A7 保護者の肯定的回答 94.5% (97.2%) 地域住民の肯定的回答 100.0% (100.0%) 【次年度の方針】 各種たよりにおいて、保護者・地域に理解を深めてもらいたい内容について、効果的に情報発信を行っていくよう工夫・改善を図る。 また、地域協議会の活動内容について教職員の理解を深め、ボランティアの有効的な活用が図れるようにする。
A 8 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った地域の学校づくりが推進されている。 【数値指標】 <児童アンケート>自分は、地域や企業の方々と一緒に活動したり勉強したりすることで、学習が充実し楽しい →80%以上 <保護者/地域住民アンケート> 学校は、家庭・地域/企業と連携協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている→80%以上	地域コーディネーターと連携して、各教科等、各学年に応じて、積極的に地域の教育力を生かすことに努める。	【達成状況】 A8 児童の肯定的回答 89.7% (88.5%) 保護者の肯定的回答 92.3% (90.7%) 地域住民の肯定的回答 88.9% (81.8%) 【次年度の方針】 地域社会や保護者の教育力を授業や校内環境整備へのサポートに積極的に生かし、学校教育の充実を図る。また、地域協議会の取組について機会を捉えて説明するとともに、地域と連携した教育活動の実際についても理解を深められるようにする。
A 9 校内は、学習にふさわしい環境となっている。 【数値指標】 <児童アンケート>学校は、清掃がしっかり行われ、学習しやすく気持ちのよい環境である →80%以上 <保護者/地域住民アンケート> 学校は、荷物や備品が整理整頓されるなど、学習しやすい環境である →80%以上	清掃の仕方を理解させ、自分たちできれいにする意識を高める指導に努める。 児童に働きかける環境の在り方について企画検討チームを中心に検討し、具体化を図る。 毎月の安全点検等を十分に行い、市とも連携をとりながら修繕・補修を迅速に行う。	【達成状況】 A9 児童の肯定的回答 86.2% (81.8%) 保護者の肯定的回答 88.4% (88.3%) 地域住民の肯定的回答 88.9% (90.0%) 【次年度の方針】 児童会の委員会活動を中心に、清掃活動に取り組む意識の高揚を図る等、指導の工夫に一層努めていく。 また、潤いのある環境づくりについて、引き続き児童のアイデアを生かしながら、有効な方策を実施していく。
B 1 家庭・地域社会との連携・協力をもとに、教育目標達成をめざしている。 【数値指標】 <保護者アンケート>学校の様子がよく分かり、また伝える場がある→80%以上	各種たよりやリーフレットの配付、オープンスクール等を通して積極的に学校の考えを発信する。また、連絡帳等を活用して児童の学校での様子を家庭に伝えたり、保護者の声に誠意を持って対応していくよう努める。	【達成状況】 B1 保護者の肯定的回答 76.4% (74.3%) 【次年度の方針】 ホームページを適宜更新して常に新しい情報の発信に努める。アンケートに寄せられた、「学校での子どもの様子が分からない。」という保護者の声に応えるために、連絡帳等を活用して学校での児童の様子を担当が意識的に家庭に伝えたり、保護者の声には誠意を持って対応していくよう努める。

教育活動の状況	生活	A10 児童は、進んであいさつをしている。 【数値指標】 ＜児童アンケート＞児童は、時と場に応じたあいさつをしている→80%以上 ＜保護者/地域住民アンケート＞児童は、時と場に応じたあいさつをしている→70%以上	児童の問題意識を喚起し、児童主体のあいさつ運動を工夫する。	【達成状況】 A10 児童の肯定的回答 87.1% (86.5%) 保護者の肯定的回答 72.4% (70.5%) 地域住民の肯定的回答 88.9% (100.0%) 【次年度の方針】 教職員・委員会活動による児童への意識付けと指導の徹底によって数値は向上している。 今後、教職員も率先してあいさつをするとともに、同歩調で児童の意識を高めて、家庭と連携した取組、環境づくり等の指導を継続していきたい。
		A11 児童は、正しい言葉づかいをしている。 【数値指標】 ＜児童アンケート＞時と場に応じた言葉づかいをしている→70%以上 ＜保護者/地域住民アンケート＞児童は、大人に対して適切な言葉づかいをしている→70%以上	場に応じた適切な言葉づかいについての、組織的、継続的な指導の具体化に努める。	【達成状況】 A11 児童の肯定的回答 76.3% (75.9%) 保護者の肯定的回答 73.2% (68.3%) 地域住民の肯定的回答 77.8% (72.7%) 【次年度の方針】 教職員自らが適切な言葉づかいを心がけ、率先垂範する。 また、授業中・休み時間等の児童の言動に留意し、必要に応じてその場で指導を加えることにより校内の言語環境を整えていく。
		B2 相手を尊重し、思いやる心を大切にしながら人と関わっている。【全】 【数値指標】 ＜児童アンケート＞児童は、友だちを大切にしている→80%以上	異学年集団活動、クラブ活動等の多様な集団活動を意図的・計画的に設け、その中で自分たちで話し合い、問題を解決していけるよう指導に努める。	【達成状況】 B2 児童の肯定的回答 91.7% (89.6%) 【次年度の方針】 縦割り班活動等により、下の学年の児童に対する思いやりの心が育ちつつある。次年度もさらに異学年集団活動などの様々なかかわりの場を積極的に設定して活動していくよう努める。 また、いじめ防止のための基本理念に基づいた取組にも関連させ、教育活動全体を通して思いやりや助け合いの心を育てたい。
	健康・体力	A12 児童は、進んで運動する習慣を身に付けている。 【数値指標】 ＜児童アンケート＞児童は、休み時間や放課後などに積極的に運動している→80%以上 ＜保護者アンケート＞児童は、休み時間や放課後などに積極的に運動している→80%以上	「元気あっぷノート」を有効に活用し、児童が自分の目標をもって体力づくりに取り組む指導に努める。	【達成状況】 A12 児童の肯定的回答 89.3% (87.7%) 保護者の肯定的回答 86.6% (88.9%) 【次年度の方針】 運動教具や運動環境の改善・充実を図るとともに、「元気あっぷノート」の一層効果的な活用法について、教職員の共通理解を深める。 また、教職員が昼休みに共に活動するなど児童の体力づくりを推進する。

学 習	A13 児童は、栄養のバランスを考えて食事をしている。 【数値指標】 ＜児童アンケート＞児童は、好き嫌いなく給食を食べている →80%以上 ＜保護者アンケート＞自分の子どもは好き嫌いなく食事をしている→80%以上	「元気あっぷカード」を有効に活用し、児童が自分の目標をもって食事について主体的に考え実践できるように支援する。 嫌いなものを少しずつ食べようとしている児童に対しては、努力を認め賞賛を与えることで自信を持たせる。	【達成状況】 A13 児童の肯定的回答 80.9% (77.1%) 保護者の肯定的回答 73.2% (75.9%) 【次年度の方針】 「元気あっぷカード」の活用や給食時指導により、食事や栄養のバランスに関する意識を高めるとともに、児童が少しでも苦手な食物を食べようと努力している姿を保護者に伝え、家庭と連携して児童を励ましていく。
	B3 児童は、弁当の日や給食でマナーや栄養のバランスについて学んでいる。 【数値指標】 ＜児童アンケート＞児童は、お弁当の日や給食でマナーや栄養のバランスについて学ぶことができる。 →80% ＜保護者アンケート＞児童は、お弁当の日や給食でマナーや栄養のバランスについて学ぶことができる。→80%以上	お弁当の日や給食で食事のマナーや栄養のバランスについて学ぶことができ習慣化できるよう指導していく。	【達成状況】 B3 児童の肯定的回答 88.8% (88.6%) 保護者の肯定的回答 93.2% 【次年度の方針】 給食を活かしたお弁当の日の取組や、授業・給食委員会を活用した日常の「食」に関する活動等を学校だより等で周知して食育に関する啓蒙を図り、家庭と連携した食育指導の推進にさらに努めていく。
	A14 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 ＜児童アンケート＞児童は、授業中に進んで話し合うなど積極的に学習している→80%以上 ＜保護者アンケート＞児童は、授業中に進んで話し合うなど積極的に学習している→80%以上	積極的に授業の中に考える時間や発表の場を設定し、互いに学び合い、高め合う授業の実現に努める。 家庭学習についてもきめ細やかに支援を行い、家庭と一体となって習慣の定着に努める。	【達成状況】 A14 児童の肯定的回答 87.0% (84.4%) 保護者の肯定的回答 83.8% (83.1%) 【次年度の方針】 グループ学習やペア学習による話し合いの場面を意図的に設け、互いに学びあう授業を心がける。 地域学校園の「学習の手引き」を活用し、地域学校園共通の課題として取り組んでいく。

本校の特色・課題等	A15 児童は、落ち着いて学習に取り組んでいる。 【数値指標】 ＜児童アンケート＞児童は、授業中に先生や友だちの話をよく聞くなど落ち着いて学習している→80%以上 ＜保護者アンケート＞児童は、授業中に先生や友だちの話をよく聞くなど落ち着いて学習している→80%以上	学習のきまりを明確化し、日常の授業における具体的な場面を捉えて、指導の徹底を図る。 教員は、普段の授業の他、特に「一人一授業」や授業参観などの機会を活用し、落ち着いた態度で取り組めるよう「じっくり考える」場面を設定し、習慣化を図る。	【達成状況】 A15 児童の肯定的回答 85.6% (78.2%) 保護者の肯定的回答 84.1% (84.8%) 【次年度の方針】 発達段階に即して作成した学習のきまりについて、時期を決めて指導を徹底し、児童の意識を一層高める。 「一人一授業」や校内研修を通して教師が互いに学びあい、より良い指導についての共通理解を図る。
	B4 自ら考えたり、友だちと話し合ったりしながら、問題を追究しようとする【全】 【数値指標】 ＜保護者アンケート＞児童は、自分の考えを持てるようになってきている。→80%以上	日常の授業に「伝え合う活動」を積極的に設定し、お互いに認め合う環境の中で児童が安心して自分の考えをもち、発表しながら、相互に高め合うよさが感じられる授業を追究する。	【達成状況】 B4 保護者の肯定的回答 83.7% (86.3%) 【次年度の方針】 「話す・聞く」についての指導を一層重視し、「話し合い活動」の場を日常の授業の中で積極的に設定する。
	B5 児童像実現のための、本校3プロジェクト（体力アップ・学力アップ・マナーアップ）が主体的・積極的に推進されている。【全】 【数値指標】 ＜教員アンケート＞主体的にプロジェクトに関わり、創造的に改善に取り組んでいる。→80%以上 ＜保護者/地域住民アンケート＞学校は、教育目標達成のために工夫している。→80%以上	課題ごとに企画検討チームによる取組を積極的に展開し、教員が主体的に創造的な改善策を提案しやすいよう、環境整備に努める。	【達成状況】 B5について 教職員の肯定的回答 96.2% (94.6%) 保護者の肯定的回答 83.4% (87.2%) 地域住民の肯定的回答 80.0% 【次年度の方針】 3プロジェクトの教育活動が定着してきているので、今後、さらに活動の改善・充実を図り、教職員が創造的に改善に取り組む姿勢や学校経営参画意識を高められるよう努める。 また、学校の取組みについて保護者に情報の発信をしていく。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

今年度の評価を指標ごとに見ると、児童のルールやマナー・言葉づかいに関する内容、保護者のあいさつや言葉づかいに関する内容などが昨年度同様にやや低い傾向にある。しかし、数値自体はここ数年の経過との比較でも上がってきている。その中でも、児童自身のあいさつや言葉づかいに関する評価は、昨年度と比較すると大幅に改善されている。児童の中に意識や意欲の向上が見られる。今後は、教職員のさらなる働きかけや、委員会や「あいさつ運動」等の児童の自発的な活動を通してさらに子どもは変容すると考える。「朝のあいさつ週間」を設けるなど一つのこと集中して取り組み、できるようになったことをほめていくことで児童の意識はさらに高まると思われる。また、今年度新たに加えられたいじめの対策に関する評価では、肯定的回答割合が児童では特に高い数値を得たが保護者では7割に満たなかった、保護者への質問が「対策を公表し熱心に取り組んでいる」となっていることから、次年度は学校での取組や児童の活動の様子などを各種たよりやホームページ等で広く発信していく必要がある。

全体的に見れば、目標値を達成できた項目は昨年度よりも増加しており、今年度の取組は成果をあげているように思える。しかし、詳細な資料を見ると、肯定的回答は「とても思う」と「まあ思う」を合わせた数値で示され、目標を達成できた項目でも児童の回答では「とても思う」が多いのに対して、保護者は「まあ思う」が圧倒的に多い。その差は、特に授業に関する項目で顕著であり、子どもの様子や変容・教師の授業における取組が保護者に伝わっていないことが要因と思われる。次年度は、今ま

でのように児童の頑張りや変容などを担任から保護者に伝える努力を継続するとともに、各種たよりでも情報を提供することで、保護者との信頼関係を深めていきたい。

6 学校関係者評価

今年度は、ボランティアによる教育活動への支援方法に改善を加え、より円滑に活動が行われるよう工夫した。本校におけるボランティアの幅広い活動は、児童の間にも浸透しており様々な支援が効果を上げている。各ボランティアの努力や地域コーディネーターの活動に感謝したい。今後は更に無理の無い形で連携を進めるとともに、新たなボランティアやコーディネーターの育成等、継続的に地域の教育力を生かしていけるよう努力していくことが必要である。

また、本校の教育活動における取組の様子は、学校だより等を通して保護者や地域に適切に発信されているが、その一方で保護者の肯定的な評価がいくつかの項目において前年度を下回った。次年度は、日常の教職員の学校教育活動に対する取組や、児童・保護者への誠意有る対応等をさらに継続していくとともに、学校と家庭の連携を強化し、課題解決に向けて具体的な対応を進めていく必要があると考える。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

児童の肯定的回答割合の推移から見られるように、総合的に見ると児童の意識や意欲が向上し、教育活動一つ一つが充実しつつある。また、ボランティア等の地域の教育力を活用した教育活動も児童の間に定着し効果を上げている。次年度も課題について具体策や組織を検討し、更により良い学校づくりを目指して一層の改善に努めるとともに、それらの情報を適切に発信し、保護者や地域の理解を得ることで学校に対する信頼も高まっていくと考える。

また、教育の基盤として、教職員の資質の向上や学校経営参画意識の高揚を図ることはもとより、保護者・地域社会との連携をさらに進めることも重要である。○地域とともに子どもを育てるかかわりや環境を大切にしていくために、「地域と連携した活動の充実」や「小中一貫教育」などについて、無理のない形での継続・発展を目指した取組により、児童へのより良い指導・支援を充実させていきたい